これだけは読んでおきたい

すてきな絵本100

年齢・発達段階別

木村美幸 著

A5正寸/160P /1800円＋税
ISBN978-4-907537-37-1

絵本の力で
育児・保育を
ランクアップ!!

ベテラン
絵本コーディネーターが
自信をもっておすすめする
魅力いっぱいの絵本たち。
ぜんぶで189

風鳴舎

全国有名書店・オンライン書店で好評販売中

木村美幸

これだけは読んでおきたい
すてきな絵本
100

風鳴舎

4～5歳 063

『かいじゅうたちのいるところ』

モーリス・センダック 作
じんぐうてるお 訳
富山房　1975年

モーリス・センダックさく　じんぐうてるおやく

コールデコット賞*1を受賞し、世界中の子どもたちをひきつけてやまないモーリス・センダック氏の代表作。氏が自分の幼い頃の遊び経験をもとに創作しました。子どもの内面のドラマをみごとに描いて、今世紀最高の絵本（絵本の王様）と称され、世界で約2000万部を売り上げています。彼は、子どもたちが恐怖・怒り・憎しみ・欲求不満などの感情（かいじゅうたち）を飼いならすために、空想・ファンタジーの力を借りるのだ、と述べています。見事なファンタジー絵本です。

"The Wild Things"…「野性的なもの」を「かいじゅう」と訳したところが、訳者・神宮輝夫氏の妙味でしょう。

あらすじ

主人公マックスは、オオカミのぬいぐるみを着て大暴れするいたずらっ子。怒ったお母さんに晩御飯抜きで寝室に放り込まれ、鍵をかけられてしまいます。そこはいつしか森になり…、ボートに乗って1年と1日航海して着いたのは、かいじゅうたちのいるところ。かいじゅうたちの王様になったマックスは、かいじゅう踊りをして大はしゃぎ。やがて寂しくなったマックスは、またボートに乗って温かい夕ご飯の待つ寝室へ。

保育・子育ての
ねらい・トピックス

1 一番のみどころは、3画面も続くネームレス（言葉が書かれていない）のページ。子どもたちにじっくり絵を見せながら、マックスと一緒に、コミカルなかいじゅう踊りを自由に踊ってみましょう。

2 子どもたちの興味関心を見事に具現化した一冊です。寝室全体が森の茂みに、ベッドカバーがテントに、どんどん変化していくファンタジーの世界を見事に演出しています。子どもたち一人ひとりがファンタジーの世界で存分に遊び込めるよう、子どもたちの心身に寄り添い、共にわくわくしながら味わっていく絵本にしたいですね。どんなにやんちゃをしても、また元の場所に戻ってこられる結末が人気の秘密なのかも…。

*19世紀イギリス絵本の巨匠、ランドルフ・コールデコットを記念して名付けられた賞。アメリカ図書館協会の下部組織である児童図書館協会が、アメリカ合衆国で、その年に出版された最も優れた子ども向け絵本に毎年授与している賞。ニューベリー賞と並び、アメリカで最も権威のある児童書の賞と言われている。

99

5～6歳 079

『からすのパンやさん』

かこさとし 作・絵
偕成社　1973年

絵本講習会に行くと、必ずお話しする一冊です。息子が幼い頃、大好きな絵本でした。特に見開きいっぱいに並んだ84種類のユニークなパンは圧巻！ 5歳の息子は、その殆どを覚えてしまっていました。ユニークな形のパン大集合、なかでも、あり得ない！ と言いながら、かみなりパンやおちょうしパン、ヘリコプターパン…などを気に入っていたようです。本書に出てくるパンを粘土で作って、パンやさんごっこをしている園もありました。

さて、このお話には40年後に「つづきのおはなし」*ができました。興味のある方はどうぞ。

あらすじ

いずみがもりのからすのまちのパンやさんに、4羽の赤ちゃん（オモチちゃん、レモンちゃん、リンゴちゃん、チョコちゃん）が生まれました。仕事と育児の両立が大変なカラスの夫婦は、だんだん商売がおろそかになり、お客さんが減っていきます。一方、すくすく大きくなっていった4人の子どもたちは、そんな両親を救うべく、奇想天外なパンをたくさん考案し、それが評判に。大騒動を起こしますが、ラストはハッピーエンド！！

保育・子育ての
ねらい・トピックス

1 からすのパンやさんが作った84種類のパンのページでクイズ！ 親子であるいは園で、じっくり画面を見せて、のちに絵本をふせます。さて、どんなパンがありましたか？ 順番に言っていきます。子ども「きょうりゅうパン」大人「だいこんパン」子ども「ペンギンパン」大人「おちょうしパン」…といった具合。ちなみに私は当時5歳の息子にいつも完敗していましたが。

2 もうひとつ圧巻のページが、香ばしいパンのにおいに誘われて、からすのパンやさんに殺到するからすの大群。作者のかこさんは、ロシアのモイセーエフ舞踊団の演目の一つ「バルチザン」に登場する兵士や農民、老若男女の一人ひとりをきめ細かに描写した芸術作品に大いに感動し、本書のからすの一羽一羽を描いたと言われています。カラスの表情をじっくり味わってみましょう。

＊つづきのおはなし…カラスの4羽の赤ちゃんが立派に成長し、大人になり、それぞれのお店を開きます。
チョコくん ⇒『からすのおかしやさん』
リンゴさん ⇒『からすのやおやさん』
レモンさん ⇒『からすのてんぷらやさん』
オモチくん ⇒『からすのそばやさん』

127

木村 美幸（キムラ　ミユキ）
1959年三重県生まれ。老舗の保育関連図書・市販児童図書版元の元・取締役。保育雑誌・児童図書等の編集部長、東京家政大学特任講師等を歴任。共著に『絵本の魅力―その編集・実践・研究』。現在、（一社）チャイルドロアクリエイト 代表理事。JPIC読書アドバイザー。絵本学会会員。絵本カタリスト（商標登録申請中）。

Amazonでのご購入はこちら

http://fuumeisha.co.jp 〒171-0005　東京都豊島区南大塚2-38-1 MID POINT 6F　風鳴舎